

「地域の人に話を聴く会」天塩高校

天塩高校では、令和4年度より教科の枠を超えて生徒が主体的に課題を発見・設定し解決力を養う目的で「総合的な探究」授業を先駆的に実施しています。7月16日、同校体育館を会場に1年生15名と町民11名（酪農業者、薬剤師、菓子店主、飲食店主、観光協会長、地域おこし協力隊、役場職員等）参加で「地域の人に話を聴く会」を行いました。生徒1、2名が、観光・特産品・教育・福祉など各分野ごとに各人にインタビューによる対話を通じて、多様な視点を持ちながら町の課題や魅力、可能性などについて聴き取りました。今後、これらの整理考察を経て動画を制作し発表する予定です。



▲天塩高校（1年生）と対話した町民ら

交通安全の願い込めたのぼり旗

7月22日、天塩警察署で交通安全旗の貸与式が行われ、天塩小2年生の山上司さんが小関貴史署長に旗を手渡しました。旗に書かれた標語は山上さんの作品で、町交通安全協会の主催で実施された「天塩町交通安全標語コンテスト」において大賞に選ばれたものです。この旗は、夏の交通安全運動の開始に合わせて町内各所に掲げられています。

北海道警察では、信号機のない横断歩道において歩行者は手を挙げるなどして横断する意思を示し、ドライバーは「横断歩道は歩行者優先」であることを理解した運転行動を実践する「ハンドサインでストップ運動」を実施しています。



▲標語を考え出した山上さん（中央）

国伴走支援官との意見交換

本町は「地方創生推進のため国の地方創生伴走支援制度」の本年度の支援自治体に選定され、3名の支援官と日々施策を協議しています。7月25日、支援官の農林水産省大臣官房デジタル戦略グループ・河津豪課長補佐が来町し、町議会議員9名、町長・副町長、関係職員への施策案説明と意見交換会をてしお温泉「夕映」にて行いました。主に基幹産業である酪農の担い手・後継者対策としての外部からの人材確保と育成、ふるさと納税推進のための戦略案について、活発な意見交換がなされました。翌26日、河津支援官は町内の農業者を訪ねしヒアリング・意見交換を行いました。町のニーズや状況をふまえて今後、施策案の展開を図っていく予定です。



▲意見交換会の様子

プロ作家講師による作文教室

7月27日、「我がまち」からの地方創生（石破茂共著）など数々の著作を執筆しているノンフィクション作家の神山典士さんが来町し、「作文大好き」書くことが好きになったよ」上映会・プロの作家が教える作文教室が開催され、小学生から60歳代までの10名が参加しました。映像では神山氏が実施している「夢を叶える作文教室」の内容や、脳科学者・茂木健一郎氏と文章力に関する対談を鑑賞。大谷翔平選手が高校生の時に書いた作文の事例から、自己実現のための作文、人の心を動かす文章を作成するためのポイントとして「五感を使う」「書いてから考える」等について解説しました。



▲作文教室の様子

社明運動 総理大臣伝達式

7月29日、第75回「社会を明るくする運動」総理大臣メッセージの伝達式が行われました。天塩地区保護司会天塩支部の鹿児島雅代支部長ら5名の保護司が役場を訪れ、吉田町長に総理大臣メッセージを読み上げ、手渡しました。犯罪や非行に陥る人を減らすためには、地域に根差した様々な支援が必要とされています。また、過ちを犯した人を地域の中に受け入れ、見守り支えるまなざしも重要です。「社会を明るくする運動」は、犯罪のない安全で安心な地域社会を築くための全国運動として、様々な取り組みを行っています。



▲総理大臣メッセージを伝達した保護司ら

レスリング少年団 全国大会へ出場



天塩ちびっ子レスリング少年団の団員4名は、7月25～27日に国立代々木体育館（東京都）で開催された「第42回全国少年少女レスリング選手権大会」に出場しました。大会を翌週に控えた7月18日、吉田町長のもとを訪れた団員らは「1つでも多く勝ちたい」と意気込みを語りました。

《大会結果》「3回戦敗退」 渡辺湊人（男子の部5年生46kg級）、「2回戦敗退」 高田龍汰（男子の部6年生50kg級）、桑田朔治（男子の部3年生28kg級）、「1回戦敗退」 落合星斗（男子の部4年生28kg級）



▲全国大会に出場した団員ら

管内連合チーム 全国大会へ



7月29日から知内町で開催された「令和7年度北海道中学校体育大会・第76回北海道中学校軟式野球大会」で、管内連合チーム「羽幌フェニックスミドル」が準優勝をおさめ、8月18日から佐賀県で開催される「第47回全国中学校軟式野球大会」への切符を手に入れました。8月12日、同チームに所属している天塩中学校1年生の穴戸皓哉さんと中岡憂莉さんが吉田町長に出場報告を行い、穴戸さんは「北海道の代表として悔いの残らないように楽しくプレーしたい」、中岡さんは「全国ベスト4を目標に、最後まで全力プレーで頑張りたい」と話しました。



▲全国大会に出場する中岡さん（左）と穴戸さん（右）

走って笑って ふれあい大運動会



7月30日、町内の高齢者を対象とした「ふれあい大運動会」が鏡沼浜公園で開催され、60代から90代までの49名が参加しました。ラジオ体操を行った後赤組と白組に分かれ、しゃもじを使ってお手玉を運ぶ競技やタオルを使つての玉入れ、パン食い競争やバケツリレーなどで得点を競い合いました。ストラックアウトではボールが高得点の位置に命中すると歓声が上がリ、仲間の健闘をねぎらいながら終始和気あいあいとした姿が見られました。閉会式の後にはバーベキューハウスに集まり、天塩町赤十字奉仕団が炊き出し訓練を兼ねて用意した白飯と、ジンギスカン等を囲み交流しました。



▲競技の様子

河川公園木柵 塗装・海岸清掃



8月2日、NPO法人天塩川を清流にする会主催による天塩川河川公園防護柵塗装と海岸清掃を行いました。町民40名（うち在住外国人13名）が参加しました。翌日に天塩川カヌー大会「ダウン・ザ・テッシン・オブ・ペック2025」でゴール地点となる8丁目・カヌーポイント付近の河川公園防護柵を塗装し、海岸清掃では天塩港南側の海岸で漂着したペットボトルなどのプラスチックゴミ類を主に総量約100kgのゴミを収集しました。参加した町内建設会社に勤務するミヤンマー人のス・ピエ・サンディ・チョーさんは「このような体験をしたのは初めてで、また、町の人とも交流できてよかったです」と感想を語りました。



▲天塩港南側の海岸での清掃の様子

追悼と平和の祈り 戦没者追悼式



本年は、日本の終戦から80年を迎える節目の年です。8月12日、社会福祉会館で天塩町戦没者追悼式が挙行されました。戦没者の遺族9名をはじめ、町長・副町長・教育長・町議会議員・町民など合わせて約50名が出席し、先の大戦で亡くなられた方々を追悼しました。

閉式ののち、天塩川河川公園で天塩町遺族会（事務局…天塩町社会福祉協議会）主催による「灯籠流し」が行われ、集まった遺族や町民らは、戦没者や先祖への思いを込めた灯籠を川へ流して供養しました。



▲献花を行う吉田町長